

ワクワク通信 No.5

令和8年6月

本年度も、甲佐高校と松橋西支援学校高等部上益城分教室では、インクルーシブな学校運営研究事業のもと、交流及び共同学習の充実に取り組んでいきます。

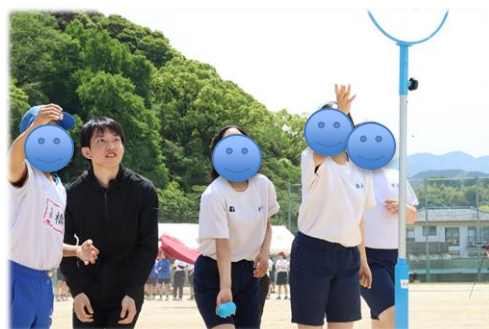
昨年度は、授業や学校行事、日常の交流を通して、生徒同士が自然に関わり合う姿が多く見られました。また、職員においても授業づくりや支援の在り方について新たな視点が共有されるなど、意識の変容が見られました。本年度は、研究のまとめの年となります。昨年度の成果と課題を踏まえ、さらに実践を深めるとともに、次年度以降にもつながるよう、取組を整理し発信していきたいと思います。

■ スポーツフェスティバル(5月9日)

今年度のスポーツフェスティバルでは、分教室の生徒も赤団・青団に分かれて、競技や応援に参加しました。当日は、両校の生徒が互いに声を掛け合いながら活動する姿が見られ、学校の枠を超え一体感を感じる取組が実現しました。



両校生徒による借り物競争



分教室競技の玉入れに、甲佐高校生が助っ人



両校生徒による応援 がんばれー!!



青団 VS 分教室 VS 赤団

■ 第1回連携協議会

6月1日に、令和8年度第1回連携協議会を開催しました。昨年度の取組を踏まえ、本年度の主な取組として、以下の内容を確認しました。

- 1 共同学習の機会の拡充と内容の充実
- 2 公開研究発表会の開催（10月9日金曜日）
- 3 日常的な交流の場の創出（昼休みの交流や生徒会活動を含む）
- 4 授業開発ユニット・支援検討ユニットの活用
- 5 成果の情報発信（研究成果報告書の作成）



会の後半では、九州ルーテル学院大学河田教授から、以下の指導助言をいただきました。

・共同学習の展開には、共同学習としての共通目標に対する共通の「評価基準」が必要。かつ各学校の教育課程にかかる「評価基準」に接続させるべく、各学校の生徒が共同で学ぶことで得られた成果や他者どう関わった等を含めた「プロセス評価」の導入が必要で、そのための「評価規準（指標）」を定める必要がある。指標としては、例として他者と関わる力や自分の考えを表現する力などを含めることが考えられる。そのために、「ルーブリック指標」を両校で作成することが事業の進展に最も重要なプロセスとなる。

■ 今後の主な予定

- ・公開研究発表会（県内外に第1次案内を発送済み）
- ・青垣祭（文化祭）での合同発表（音楽や美術での共同学習）
- ・合同職員研修（教科ごとの打合せ等） など



昨年度の青垣祭 合同ステージ発表

■ 今後に向けて

交流の機会の増大と継続的な協議を重視し、『ワクワクしながら、まずやってみる』姿勢で取組を進めていきます。教科ごとの打合せを経て、昨年度以上の交流及び共同学習を実施していきたいと思えます。評価の視点を両校で共有しながら、取組を進めてまいります。研究を進めるに当たり、良いアイデア等がありましたら、お知らせください。